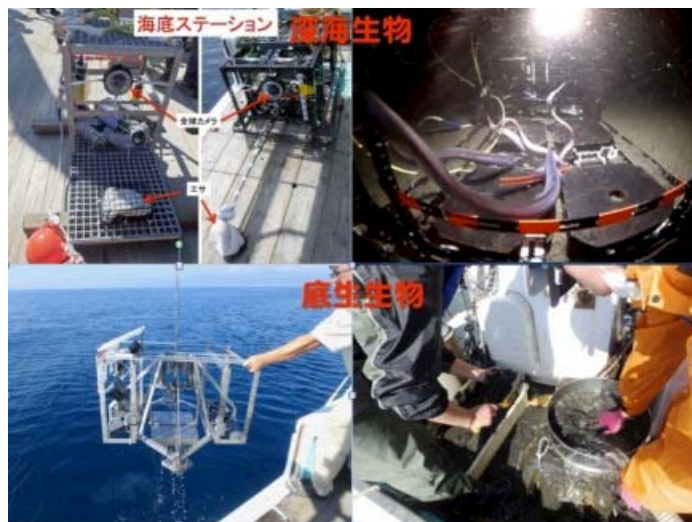
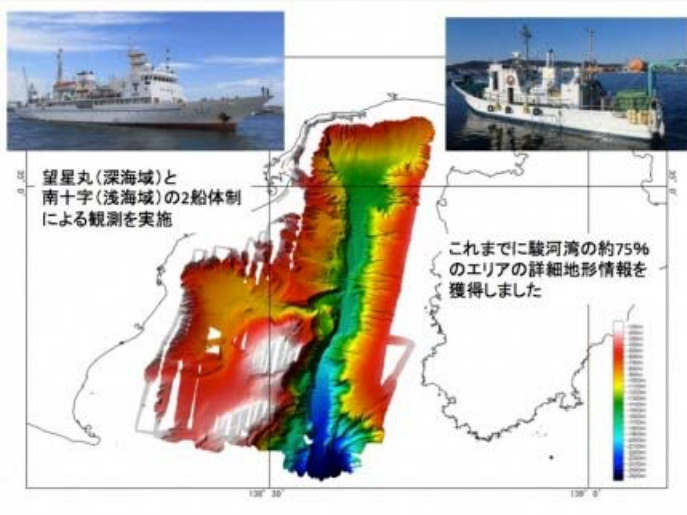


駿河湾における総合海洋調査研究



目的・概要

富士山を背景に有する駿河湾は、水深2500mを有する日本最深の湾であり、浅海～深海におよぶ広い範囲にわたり多様な自然環境が存在し、多様な生物資源が存在する。私たち静岡は駿河湾の自然を理解し、この自然との共存を模索しなければならない。本プロジェクトは、駿河湾の自然（海底地形・海洋情報）に対する空間的データを取得し、海洋インテリジェンスを基盤とした水産業・海洋レジャー産業・防災減災計画を推進することを目的とする。

実施体制

- 東海大学海洋学部 准教授 坂本泉（プロジェクトリーダー）
- 東海大学海洋学部 講師 田中克彦
- 海洋研究開発機構 海洋生物多様性研究分野 藤原義弘



研究内容

① 駿河湾海底地形測量（深海部・浅海部）

本プロジェクトの根幹となる海底地形データを採取する。駿河湾域は急激な地形変化を伴う海域であり、多くの魚種を含む漁場となっている。特に平成29年度は、深海部として東海大学調査船望星丸搭載のMNBを用い湾中央部の石花海を中心に、浅海部は小型調査船南十字を用い富士川～安倍川間の大陸棚海域を行う。

② 駿河湾海底地形測量（漁民皆測）

近年すべての漁船には魚群探知機が搭載され、効率の良い漁が行われている。この魚群探知機は、測深機能も備えた機器が多く位置・水深の情報を取得することが可能になる。測深機能はシングルビームでありMNBに比べると遙かに劣るが、複数の漁船でオペレーション時にデータを取得すれば、地形概要が得られる可能性がある。平成29年度は小型船舶用の魚探を利用し、魚探で得られた水深データの特徴や特性を把握するとともに、データ取得から海底地形図作成までのプロセスの検討を行う。これら一連の作業を通じて魚探による海底地形図作成の際に必要な所条件を検討する。

③ 海洋観測

海洋情報（底質・海水・生物）の取得を行う。底質はグラブ式を主とし同時に海底画像・CTD情報も取得する。採取後粒度組成・構成岩石等の記載・分析を行い、底質図を作成する。JAMSTEC生態グループとの情報交換をおこない、シミュレーションによる生物・海洋モデル構築のためのFSをおこなう。

④ 海洋3D情報化

観測により得られた地形情報を基盤に、海洋情報を加え3次元空間の情報可視化に取り組む。海底3次元地形マップ上に画像をはめ込み、水産業者をはじめとする海洋関連従事者、防災・減災関連従事者に分かり易い表現方法を検討する。このために各種IT関連業・地域水産業者との議論を実施する。